

◆園の運営及び園務の遂行

- 教育目標を達成するために、その考え方をわかりやすく説明し、具体的な子どもたちの姿がイメージできるように話しながら、教育方針の理解を得るように説明責任を果たしている工夫がみられる。附属園の使命ともいえる研究の充実を柱にしながら、幼児の育成について深く追求している運営は意味深いことと思う。
- 教育目標は、子どもだけでなく職員も目指すべき目標だと思う。“常識を疑う発想”が大切。たとえば園庭の遊具を見直すプロジェクトに関しても、「安全」というと危険なものを取り除くという方向に走ってしまいがちで、そうすると遊具がなくなっていってしまう。保護者も常識にとらわれてしまう。果たしてその方向でいいのかもう一度考え直すことが必要。このプロジェクトの考え方は、「子育て支援」にもつながる。常識を疑う発想は、園運営の要にもなる。教育は教師だけがやるのではなく、保護者とともに試行錯誤しながらやるもので、その後の子どもたちの心情・意欲・態度の育ちを丁寧に見とるというよい取り組みをしているのだから、きちんとまとめ、教育モデルとして共有していくべき。4 附属間で共有する方法を考えれば、よい研究テーマになっていく。
- 予算との兼ね合いで計画的に進めながら、施設環境について着々と成果を積んでいることがよくわかる。
- 施設が古いせいか、安全や整備については、教職員・保護者共に昨年度よりポイントが下がっていた。大きな事故は起こっていないと思うが、教職員の点検は毎学期ごとと言わず、もう少し増やしても良いかと思う。

◆本園の保育

- 折に触れて園の教育目標や方針を話しているということで、教職員も保護者もよく理解していた。特に保育内容については、保護者から高く評価されており、教職員の日頃の成果だと思った。
- 教育目標が常に身近にあり、主体的な子供の育成に向けて具現化しようとしていると思われる。園内研究、一人一人の子どもの情報共有、行事の取り組み方の共通理解など、全教員が互いに高め合う日常があり、園の保育の質を確保している。
- 子どもたちに必要な能力を育てるため、考え、工夫している。安全についての自己意識においては、まさに今必要な力だと思う。

◆子育て支援

- 大学の先生の講演会や「おしゃべり広場」・スクールカウンセラーによる相談等、幅広いニーズに対応できる機会が設けられている。担任だけでなく、いろいろな先生に話したり、相談をしたりでき、保護者が安心して子育てできる環境が整えられていると思う。
- 保健に関する様々な取組や図書の貸し出しや整備等、親子が共に健康で文化的な生活を送る要素を提供できる支援は良いことと思う。
- 保護者を巻き込み、考えさせることで子育てを支援している。

◆国立大学教員養成系学部附属幼稚園としての社会的使命の達成

- 幼稚園教育要領が全面実施された中で、2019年度は2回の公開研究会をはじめ、千葉乳幼児研究会、文部科学省の調査研究等等、国立大学教員養成系学部附属幼稚園として公立幼稚園・こども園の先頭に立ち、保育・研究に努め、内外に幼児期の教育の重要性を発信し続けている。社会的使命を果たしている。
- 大学・学部との連携を通してより専門的なアドバイスを生かすことができることが、全国の幼児教育の関係者に様々な刺激や影響を与えることになると感じる。
- 学校評価集計結果で、教員の評価が下がっていることを自己評価が厳しくなっている表れと見れば、質の維持向上への意識の高まりとして意味深く感じる。
- 以前山田園長が「幼稚園では子どもが研究をしている」といっていたが、小学校でも子どもが考えるような研究に近いものをもっとしなくてははいけないと思う。幼小の接続についてももっと発信していくべき。

1.学校評価アンケートのまとめ

期日:2018年12月6日～13日 保護者数:全体140(3歳児:28、4歳児:56、5歳児:56) 教職員数:13 100%回収
 A:よく当てはまる B:だいたい当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない

(1) 保護者アンケート

◆園の運営及び園務の遂行

	A	B	C	D
園は教育目標や方針をわかりやすく説明していますか。	133(95%)	7(5%)	0(0%)	0(0%)
園内の安全や整備は十分ですか。	80(57%)	53(38%)	7(5%)	0(0%)
園の遊具・用具・図書などの整備は十分ですか。	93(66%)	43(31%)	4(3%)	0(0%)
園は事故や訓練など緊急事態発生時の対応を適切に行っていますか。	128(91%)	11(8%)	1(1%)	0(0%)
保護者の方は、PTA活動に参加しやすいですか。	71(51%)	61(44%)	6(4%)	2(1%)

- 教育目標や方針の説明については、折に触れて話してもらっていると高評価だった。特に、ふれあいの日(参観日)の保護者向けの研究発表は実際の子どもの活動を通しての話で理解しやすかったとの意見を多くもらった。
- 図書に関しては、良い本が多いことが高評価であった。また、昨年度の学校評価の意見を受けて、毎週木曜日の午後にPTA図書委員会の協力を得て、年長児にどんぐり文庫を開放し、子ども自身が本を借りられるようにした。そのことについても「良かった」という意見が多く、年中少にも同様の取り組みを望む声があった。紙芝居の貸し出しを望む声もあった。
- 遊具に関しては、工学部のデザイン学科と連携し、保護者の協力によって、7月に総合遊具「ゆめのしろ」を改造した。子どもたちが挑戦できる遊具に生まれ変わり、それに対する評価も高かったが、メンテナンスの必要性や安全に対する不安を訴える保護者も見られた。
- 施設・設備に関しては、老朽化についての指摘はあるものの、毎年少しずつ改修していること、整備していることについては認めてもらっている。昨年度に引き続き、通路の屋根を一部作ったことへの評価は高かった。移動式靴箱について「下足と上靴は別々の方がいい」という意見もあった。
- 避難訓練は様々な状況を考えて頻繁に行っており、子どもたちも対応が身につけているという評価をもらった。
- PTA活動は、少しではあるが、昨年より評価が高くなっている。「楽しく参加している」「参加することはプラス面が多い」という意見も多かったが「下の子がいる、仕事をしていると参加しにくい」などの意見もあった。「お互い様なのでできる人ががんばれば良い」という寛容さを示す保護者と平等さを求める保護者の両方がいる。インターネットを使用する際は、教職員の管理下でということで、事務室で使用してもらっているが、いつでも使用して良いというわけにいかず不便さを感じている役員も見られた。

◆本園の保育

	A	B	C	D
園は園児が主体的に行動できるような環境を構成していますか。	131(94%)	9(6%)	0(0%)	0(0%)
教職員は教育課題(友達とかかわり・生活習慣・規範意識)について意識して援助や指導を行っていますか。	122(87%)	18(13%)	0(0%)	0(0%)
教職員は幼児一人一人を理解し、その子にふさわしい援助や指導を行っていますか。	115(82%)	25(18%)	0(0%)	0(0%)
教職員は「うごく」子どもを育む保育をしていますか。	126(90%)	13(9%)	1(1%)	0(0%)
教職員は「かんじる」子どもを育む保育をしていますか。	128(91%)	12(9%)	0(0%)	0(0%)
教職員は「かながえる」子どもを育む保育をしていますか。	124(88%)	15(11%)	1(1%)	0(0%)
園は幼児の保健に関して家庭や医療機関と連携ができていますか。	121(87%)	17(12%)	2(1%)	0(0%)
園は日常の健康観察や疾病予防の取り組み・健康診断に関して適切に実施していますか。	122(87%)	17(12%)	1(1%)	0(0%)
園は園便り・学級便り・保護者会・ホームページ・降園時の連絡などで、園の様子をわかりやすく伝えていきますか。	119(85%)	20(14%)	1(1%)	0(0%)

- 教育目標「うごく」「かんじる」「かながえる」への理解や、それに対する園の取り組み、教師の援助などは高

く評価されていた。

- 「子どもの意見を尊重した保育がなされている」「主体的に行動できる環境を作り、適切な指導や援助ができていく」「自然が豊かで子どもの好奇心を引きつけ主体的に動ける仕掛けが多くある」など本園の保育を理解してくれる保護者が多かった。対話を重視した保育をしていることについて、「幼児は未熟な民主主義に流されてしまう場合も多いので、きちんと状況を理解させて上で、話し合い場面や考える場面をつくってほしい」という意見、主体性を大事にして自分で遊びを選択することについて「そのときしか経験できない遊びは全員でやってみる機会をつくってほしい」という意見もあった。
- 「一人一人の個性を大事にした援助や指導をしてくれる」という意見が多かった一方で、「3歳児の保育は手厚いが、年中以降はケアしきれていない部分もあるのではないか」という意見も少数あった。
- 保健に関しては「けがや体調不良に迅速に対応してくれる」「きちんと説明をしてもらえて安心」「手洗いやがいの指導をきちんとしてくれる」「アレルギー対応が良い」など、評価が高かった。歯磨き指導、毎回の身体測定での身長と体重両方の計測、に対する要望なども例年と同様、少数見られた。
- ホームページやお便り、連絡については「園での様子がよくわかる」との意見が多かった。「もっと更新回数を増やしてほしい」「もっと写真が見たい」などの要望は年々増えている。水遊びの写真は「防犯上心配」という意見があった。

◆子育て支援

	A	B	C	D
園は公開講座・おしゃべり広場・保育参加などを通して子育てに関する相談や支援を行っていますか。	121(86%)	19(14%)	0(0%)	0(0%)
園は保護者から寄せられた意見・要望の対応や、子育てに関する相談や支援を行っていますか。	104(75%)	34(24%)	2(1%)	0(0%)

- 「園内外で保護者や先生たちとの交流がたくさんあることで、相談しやすい環境になっている」「保護者の意見にも一つ一つ誠実に回答してもらえる」など、園全体が支援的な雰囲気を醸し出している点を認めている保護者が多かった。また、特にスクールカウンセラーの存在が高く評価されていた。おしゃべり広場や保育参加、公開講座、個人面談などもよい評価であった。運動会の未就園児の種目を作ることへの要望もあった。

◆国立大学教員養成系学部附属学校園としての社会的使命の達成

	A	B	C	D
園は国立大学教員養成系学部附属幼稚園としての社会的使命(教育実習・公開研究会等)もっていますが、有益な使命を果たしていると思いますか。	125(89%)	14(10%)	0(0%)	1(1%)
大学と連携することが幼稚園の運営や保育に生かされていると思いますか。	124(89%)	16(11%)	0(0%)	0(0%)

- 「公開研究会や教育実習生の受け入れなどにより、社会的な使命を果たしている」という意見が多かった。また、今年度より、公開講座を地域の方々にも開いたことで使命の幅が広がったという意見もあった。
- 大学との連携に関しては、工学部との連携で総合遊具「ゆめのしろ」を改造したことから、積極的に行っていると感じた保護者が多かった。また、大学附属ならではの取り組みであることを認めた上で「もっと様々な機関と連携できる可能性があるのではないかと期待する声も多かった。さらに、卒園後の追跡調査も含め、附属小学校との連携を望む声もあった。
- 研究や教育実習の受け入れなどを行っていることから「社会的な使命を十分に果たしていると思うので世論に押され、公立園的な方向に進む必要はない」という意見と、「保育時間を延ばしてほしい」「外部や地域との交流をして開かれた園にすべき」など社会のニーズに応える方向を考えた方がよいという意見があり、今後本園が進むべき方向性について多様な意見があることがわかった。

(2) 教職員アンケート

◆園の運営及び園務の遂行

	A	B	C	D
園では教育目標達成に向けた管理職のリーダーシップに職員が信頼をもって取り組んでいますか。	13 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
園は教務・研究・教育実習等の校務分掌が適切に機能するように組織し運営していますか。	11 (85%)	2 (15%)	0 (0%)	0 (0%)
園は各教員の資質向上のための研修に組織的に取り組んでいますか。	12 (92%)	1 (8%)	0 (0%)	0 (0%)
園は教育目標や方針をわかりやすく説明していますか。	13 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
園内の安全や整備は十分ですか。	1 (8%)	8 (62%)	4 (31%)	0 (0%)
園の遊具・用具・図書などの整備は十分ですか。	2 (15%)	11 (85%)	0 (0%)	0 (0%)
園は事故や訓練など緊急事態発生時の対応を適切に行っていますか。	10 (77%)	3 (23%)	0 (0%)	0 (0%)
園は安全点検や安全対応能力の向上に関する取り組みを十分行っていますか。	7 (54%)	6 (46%)	0 (0%)	0 (0%)
保護者の方は、PTA活動に参加しやすいですか。	8 (62%)	5 (38%)	0 (0%)	0 (0%)

- 園の運営については、「管理職のリーダーシップのもと、同じ方向を向いて仕事ができる」など高評価だった。
- 園務分掌に関しては、「それぞれがよく取り組んでいる」「どの教員も担当以外の分掌も手伝っている」と少ない職員数の中で協力して園務をこなしていることをあげる職員が多かった。
- 研修については、教育課程指定校事業に取り組むなど積極的に行っているという意見、非常勤職員も研修に参加できるようにしてくれてよかったなど、全体程に評価が高かったが、もう少し、系統的に行えるようにする必要があったとの回答もあった。
- 施設や整備に関して、昨年度より評価が下がっている。渡り廊下に屋根がついたこと、集会室のトイレが改修されたことは良かったとしながらも、園舎の老朽化、テラスのひび割れ、ハザードの多さがあげられている。また、遊具の改造では木材を使用したため、こまめに安全点検やメンテナンスを行う必要が出てきていることを指摘する意見もあった。さらに、スタッフルームや非常勤職員のロッカールームの冷暖房やスタッフルームなどの環境の不備をあげる意見もみられた。
- 授乳コーナーがなく、不便ではないかという意見があった。
- 安全面については、避難訓練の他に、養護教諭を中心に頭部外傷の緊急対応訓練など、先進的な取組を行っていることが良いという評価があった。
- PTA 活動に関しては、少しではあるが、昨年度より、ポイントが上がった。

◆本園の保育

	A	B	C	D
園は園児が主体的に行動できるような環境を構成していますか。	9 (69%)	4 (31%)	0 (0%)	0 (0%)
教職員は教育課題(友達とかかわり・生活習慣・規範意識)について意識して援助や指導を行っていますか。	9 (69%)	4 (31%)	0 (0%)	0 (0%)
教職員は幼児一人一人を理解し、その子にふさわしい援助や指導を行っていますか。	7 (54%)	6 (46%)	0 (0%)	0 (0%)
教職員は「うごく」子どもを育む保育をしていますか。	9 (69%)	4 (31%)	0 (0%)	0 (0%)
教職員は「かんじる」子どもを育む保育をしていますか。	10 (77%)	3 (23%)	0 (0%)	0 (0%)
教職員は「かんがえる」子どもを育む保育をしていますか。	10 (77%)	3 (23%)	0 (0%)	0 (0%)
園は気になる子への支援を適切に行っていますか。	5 (38%)	7 (54%)	1 (8%)	0 (0%)
園は幼児の保健に関して家庭や医療機関と連携ができていますか。	7 (54%)	6 (46%)	0 (0%)	0 (0%)
園は日常の健康観察や疾病予防の取り組み・健康診断に関して適切に実施していますか。	11 (85%)	2 (15%)	0 (0%)	0 (0%)
園は園便り・学級便り・保護者会・ホームページ・降園時の連絡などで、園の様子をわかりやすく伝えていますか。	6 (46%)	7 (54%)	0 (0%)	0 (0%)

- 「スタッフルームでの意見交換が保育の質を高めている」という意見や、「教職員は質の高い保育集団を目指して日々努力をしていると思う」とししながら「さらに工夫できる余地がある」とする意見があった。
- 「4歳児クラスに一人ずつ副担任がいるとよい」「副担任ともう少し連携していけるとよかった」という意見があり、教員数の不足、非常勤教員の勤務時間が限られていることからの連携の難しさなどもあげられた。
- 今年度の研究の中で教育課程の見直しをしていることから「教育目標を意識することが増えた」と研究と保育が密接であることもあげられていた。
- 保健に関しては、「養護教諭がいてくれることで助かっているが、任せすぎて、確認を怠っている部分がある」という反省も見られた。
- 「以前に比べて、格段に丁寧に情報発信するようになったが、求められるものはどんどん増えるので、負担にならないように続けることが大事ではないか」という意見があった。

◆子育て支援

	A	B	C	D
園は公開講座・おしゃべり広場・保育参加などを通して子育てに関する相談や支援を行っていますか。	10(77%)	3(23%)	0(0%)	0(0%)
園は保護者から寄せられた意見・要望の対応や、子育てに関する相談や支援を行っていますか。	11(85%)	2(15%)	0(0%)	0(0%)

○「カウンセラーがいてくれることがありがたい」という意見が多かった。

◆国立大学教員養成系学部附属学校園としての社会的使命の達成

	A	B	C	D
園は国立大学教員養成系学部附属幼稚園としての社会的使命(教育実習・公開研究会等)をもっていますが、有益な使命を果たしていると思いますか。	12(92%)	1(8%)	0(0%)	0(0%)
園は大学・各附属校との連携研究を通じて幼児教育の先進的研究を行っていると思いますか。	7(54%)	6(46%)	0(0%)	0(0%)
園は幼稚園教員養成課程学生等の教育実習、研究協力、授業協力を適切に行っていると思いますか。	13(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は公開研究会、他園や教育委員会への協力などを通して地域に貢献していると思いますか。	9(69%)	4(31%)	0(0%)	0(0%)
研究を通して自己の指導力が高められたと思いますか。	6(46%)	6(46%)	1(8%)	0(0%)
大学と連携することが幼稚園の運営や保育に生かされていると思いますか。	7(54%)	6(46%)	0(0%)	0(0%)

○「学生にきめ細かい指導を行っている。年に2回の公開研を行っていることなど社会的な使命は果たしているように思う」「有益な使命は付焼刃的なものや流行に乗るものではないと考えれば使命を果たしているが、保育時間の長さ、保護者の参加の多さなどいわゆるニーズにこたえているかといえ果たしていないかもしれない」など社会的使命を様々にとらえた回答が見られた。

○工学部、教育学部美術科、医学部など少しずつ連携が増え、有益であるとしているが、もっと幼児教育教室の先生方と連携していけたらよいという意見があった。

○自己の指導力の向上については、「研修の時間があることで、保育の質を担保していけるのではないかと」しながら、「さらに質が上がるように努力したい」と考える教員が多かった。

2.学校評価アンケートにもとづく自己評価

◆学校の運営及び園務の遂行

- ・本年度、年長児自身が本を借りられるようにしたことが高評価だったことから、年中・年少児にも貸し出しを望む声があがった。しかし、どんぐり文庫が2階に位置しており安全管理上無理があること、年中少は保護者と一緒に本を選ぶところから始めてほしいことから、子ども自身への貸し出しは年長になってからということ申し合わせた。紙芝居の貸し出しを望む声もあったが、図書委員の手間や紙芝居の特性を考え、貸し出しは見合わせることにした。
- ・建物や設備の老朽化に関しては、毎年指摘が多い。職員は、毎学期、チェック表を用いながら安全点検を行っている。学校評議員の先生より指摘があったが、老朽化も激しいので気付いた時にはすぐに対応するように心がけたい。集会室のトイレは要望が通り3学期に修繕を終えた。春休みにテント地の屋根を管理棟前にも設置する予定である。
- ・移動式靴箱について、「下足と上靴は別々の方がいい」という意見があり検討したが、「上靴を外に放置することになり汚れてしまう」「テラスが使いにくくなる」という意見が職員から出たことで保留となった。
- ・教職員から「授乳コーナーがなく不便なのではないか」という意見があった。パーテーションを購入して、集会室で授乳できるようにすることにした。
- ・「ゆめのしろ」の改修は、老朽化のための作り替えから話が始まりだったが、一級建築士の井上寿氏に点検してもらったところ、本体は大丈夫だということだった。その旨をきちんと保護者に伝えておらず、心配していた保護者もいたため、改めて伝えるようにした。メンテナンスについては、工学部の学生と職員で行っているが、これからも続けていく必要がある。3学期始業式の日には工学部学生による子どもたちの使用状

況やこの遊具による育ちについての説明会を行った。今後も報告の機会を持ちたい。

- ・火災・地震・不審者などの避難訓練は、いずれも「教師の指示をしっかりと聞いて行動する」ように子どもたちに指導しているため想定を大きく変える必要はないが、教師側の訓練として、様々な想定で行う必要がある。地震と火事では異なる避難場所を設定していたが、混乱しないようにどちらも「ゆめのしろ前」に変更する予定である。また、防災倉庫を設置し、各クラスのテラスにある防災頭巾や通用門付近の倉庫に置いてある非常食をまとめて収納する予定である。「引き取り訓練でのアレルギー児のサインビブス着用」の提案は、子どもの心的負担も考え、年に1回、園内の避難訓練での着用としたい。
- ・PTAについては、活動を整理し負担を少なくしていきたい。年間8回の役員会を今年度は7回にした。来年度は6回に減らす予定である。「事務室以外でのインターネットの使用ができず不便だ」という意見もあったが、PTAは大学の組織ではないため、情報セキュリティ上できないことを理解してもらった。また、環境整備委員会から、園庭整備の位置づけが、園からの行事なのか、任意の活動なのかのかわかりにくかったとの反省が出た。園からの依頼であることを分かりやすく伝えたい。

◆本園の保育

- ・昨年度から「対話的な学び」ということをサブテーマに研究を進め、保育もその観点から見直していることから、本園の取り組みを理解して、高く評価してくれた保護者が多いように思った。
- ・アレルギー児への対応については「もっと情報を皆で共有した方が全体の危機意識が高まる」「アレルギー対応に対して全園児への要求が多すぎる」という意見があった。近年増加傾向にあるので、今後も協力してもらおう必要があると考えている。
- ・「年長もぬいぐるみ病院ができるとよい」「身体測定での身長計測の機会ももう少し多いと嬉しい」の2つについては毎年意見をもらっているが、保育時間を確保するために現在の形から変更することは難しい。ぬいぐるみ病院は亥鼻祭を利用する、身長の測定は希望者が園庭開放時に養護教諭に個別に行ってもらえるなどの形で対応したい。
- ・健康診断の予備日の設定や、学校医に再度診療についての要望は、附属幼稚園に特別な優先権はなく難しい。心電図の場合は翌年に受診することができる。

◆子育て支援について

- ・「HPの更新をもっとしてほしい」というご要望があったが、教職員には時間的制約もあり、できる範囲で更新している。水遊びの写真などは控えてほしい」という要望があったため、水着の写真は削除した。教員側の負担を考えて「幼稚園からの暑中見舞いや年賀状は廃止してもらってよい」という意見もあったが、教育的意図もあるため継続したい。
- ・子育て支援に関する行事が一部重複するとの意見があった。それぞれの主旨については園生活のしおりに書いてあるので確認いただく。「参加が負担」との意見もあったが、ほとんどの行事が任意参加なので、家庭に合わせた参加の仕方を考えていただく。
- ・「運動会で未就園児の種目があると良い」との意見があった。今年度より、PTAからの要望でP種目も入り、これ以上長くなると、園児の集中力が切れてしまうことや熱中症の心配がある。また、以前、未就園児の種目を行っていた際に無理に参加させるなどの事例が多く見られたため、廃止した経緯がある。最後の親子リズムに在園児の弟妹も参加するなど参加の仕方を工夫していただく。

◆国立大学教員養成系学部附属幼稚園としての社会的使命について

- ・今の揺れ動く幼児教育界の縮図ともいえるが、「本園の特長を生かして保育・研究をしていくべき」「保育時間の延長などをしていくべき」という両方の考えが見られた。大きな流れの中で、文部科学省の考え方、大学の考え方、そして本園の考え方をすり合わせ、保育の質を保証すること、保護者のニーズに寄り添うこと、国立大学附属幼稚園として研究を進めていくことなど様々なことを考え合わせながら進むべき方向を模索している。働き方改革も合わせ、今後も考えていくべき課題と捉えている。
- ・連携については、工学部との連携を中心に評価が高く、また大学の他の機関との連携についてのアイディアももらった。大学の附属であることは本園の大きな特徴なので、双方にメリットのあるような連携を今後も考えていきたいと思う。